

特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブパレット

2023 年度 事業報告書

2023 年度事業報告書

1) 事業の成果

《パレット》

1. **パレットの理念に基づいた事業の充実と安定した運営を図ります。**
 - ・ 青葉区を子育てしやすい町にするために、それぞれの事業所が責任をもって運営することに努めました。人材の確保に力を入れ、毎月のミーティングでは内部研修も取り入れて事業の充実を図りました。
 - ・ 青葉区こども家庭支援課での見守り保育事業を受託して 4 年、年々利用者が増えていきます。安心して区役所子ども家庭支援課の窓口を利用してもらうことができるよう、安定的にスタッフを配置しました。
 - ・ パレット全体研修を開催し、働き方や業務効率化、魅力的な職場づくりについて学ぶとともに、一人一人の困りごとや業務負担感などを出し合い事業所内で共有しました。メンバーの働き方を捉え直し、前向きでやりがいのもてる働き方や処遇改善について皆で考える機会となりました。
 - ・ 医療型短期入所施設「もみじの家」への募金箱を各事業所に設置し、パレットからの寄付も含め毎年お送りしています。今年度は青葉区民まつりでも募金箱を設置し、ブースの売上も全額寄付しました。パレットの理念に通じる取組みとして、利用者に今後も「もみじの家」の周知を行っていきます。
2. **変化していく社会情勢に対応しつつ、多様な親子に寄り添い、適切な支援ができるよう、各事業所や関係機関と連携を密にして取り組んでいきます。**
 - ・ 2023 年 7 月 1 日からスタートした一時保育・一時預かりでの「はじめてのおあずかり券」、横浜子育てサポートシステムでの「子サポ de あずかりおためし券」により乳児の預かり依頼件数が増加し、利用につながるよう工夫しました。青葉区内の多様な親子に寄り添い、時には緊急の受け入れにも対応するなど、社会の要望にきめ細やかに応えることができました。
 - ・ 各事業所で、ICT 化に向けての取り組みを進めました。
 - ・ 今年度もフードドライブ・フードパントリーを隔月で開催し、年 6 回食品配布を行いました。各事業所での回収の他、学校給食用等政府備蓄米の交付申請、協力企業からの提供品の回収も行っており、この活動を通じて地域の人や協力してくれる店、企業、学校などとも繋がりが広がっています。コロナ禍で始めた活動ですが、物価高の影響などから新たな受取り希望者もあり、活動をどう継続していくか、その取り組み方についても検討しています。
 - ・ 1 つの事業所に留まらず、互いの事業所に出向き、活動を紹介する機会をもつことができました。複数の事業所で連携して利用者を受け入れることができるという法人の強みを生かし、つながりのある支援を行うことができました。また、当法人以外の場に出向き、お互いの研鑽に努める機会も得ました。
3. **広い世代にパレットの活動を伝え、子育て支援の輪を地域に広げ、安心して子どもを産み育てることのできるまちづくりに努めます。**

- ・ 公園愛護会での清掃活動を継続してきた結果、地域の方から感謝の声をかけられる場面もありました。地域住民がパレットの事業所を知り、見守ってくれているという実感を大切に、今後も子育て支援の輪を地域に広げていきます。
- ・ パレットのHPをリニューアルし、事業所の利用を考えている人にとって分かりやすい情報発信を目指すとともに、タイムリーな情報の更新作業を心がけました。求人情報の発信や活動紹介などをオンラインでできる環境を整えました。広い世代にパレットの活動を伝え、支援の輪を広げることを目指しました。
- ・ パレット通信を発行し、広く関係機関に配布しました。
- ・ 青葉区民まつりに4年ぶりに出店し、親子が楽しめる場を提供しました。事業所は知っていてもパレットを知らない区民も多く、法人全体の活動を広報する機会となりました。

2) 事業内容

特定非営利活動にかかる事業

① 保育室での保育に関する事業

《まーぶる》

1. 子どもひとりひとりの成長を大切に、豊かな日常をつくります。
 - ・ 季節の行事や制作を取り入れ、子どもが感性豊かに過ごせるよう工夫しました。
 - ・ 月齢、年齢に分けて保育を行う時間を設けました。
 - ・ 自分からしようとする姿を大切に、先回りした援助をしないように努めました。
 - ・ 保育者が子どもの気持ちを代弁し、行動を仲立ちすることで、友だちと関わることの楽しさを感じることができるよう丁寧に対応しました。
 - ・ 各種行事なども親子で参加できるようにし、お子さんの成長やまーぶるでの様子を見る機会を設けました。
 - ・ 子どもの表す複雑な思いを丁寧に受け止め、共感し、子ども自身が安心して自らの思いや行動を出せるようにしました。
2. 異年齢保育の良さを生かし互いの成長を促します。
 - ・ 同じ空間で制作や遊びを行う事で、助けあったり、憧れやチャレンジする気持ちになって真似したりする姿が見られました。
 - ・ 小さい子をかわいがる様子や大きい子に興味を持つ姿を見守り、様子に合わせて仲立ちしました。
 - ・ 戸外活動の際、子ども同士が手繋ぎをする時に、大きい子が小さい子に寄り添う姿や小さい子はそれに対して喜び、励まされ頑張る姿がありました。
3. 安心安全に配慮し、温かいふれあいや経験を大切にしていきます。
 - ・ 家具の配置換えや、子どもが遊びやすいおもちゃを用意して保育室の環境整備を行いました。
 - ・ 戸外活動を行う際も常に安全を確認し、子どもたちがのびのび過ごせるよう努めました。
 - ・ 保育中のケガやヒヤリハットなどをミーティングで共有し、常に安全を心がけました。

- ・ 乳児が安心して過ごす為、別室での保育時間を設けたり、一緒に過ごす場合はベビーマットを敷いてスペースを広くするなどの工夫をして環境を整えました。
- ・ 戸外では、発見したり感じたりすることに共感的に関わり、さらに興味が広がるよう努めました。
- ・ 毎月、心肺蘇生訓練・消火器訓練・窒息訓練などを行い、個人でも全体でも確認しました。
- ・ 熱中症計を携帯し、園外保育での気温の確認もこまめに行いました。
- ・ アレルギーのある子どもには、朝の申し送りでの共有を徹底し、昼食時の見守り、昼食後の掃除など、細かい配慮を心がけました。

4. 一時預かりを通じて地域の子育て家庭の声を聞き、事業に反映させる努力をします。

- ・ 子育て家庭の急な事情や緊急時に関係機関と連携して対応しました。
- ・ 園外保育に出かける際は積極的に挨拶をし、地域の方に声をかけてもらい地域行事にも参加することができました。
- ・ イベントを行う際は、ご迷惑にならないように近隣の皆さんに事前にお知らせをしました。
- ・ 赤ちゃん教室や親子の広場に出かけてまーぶるの活動を伝え、親子との交流ができました。
- ・ Webでの登録や予約ができるようになり、多くの方の見学・登録に繋がりました。
- ・ 利用登録の際も説明・質問に丁寧に対応し、安心して利用できるよう心がけ、日頃の子育ての悩みなども話せる場にしました。
- ・ 「はじめてのおあずかり券」の発行に伴い、たくさんの乳児預かりの要望に応えられるよう預かり方の工夫をし、多くの方に利用していただきました。
- ・ 送迎の際など、保護者が話しやすいよう対応に気をつけ、寄り添い一緒に考える姿勢を大切にしました。
- ・ 定期預かりの方とは個人面談を行い、お子さんの家庭での様子や子育ての困り事などを共に考えることができました。
- ・ スムーズな受付になるよう、モバイル決済を利用できるようにしました。

5. 保育者同士が活発に意見交換を行い、保育のスキルアップと保育環境の充実に努めます。

- ・ 月に一度のミーティングでは、グループワークなども取り入れ、より活発な意見が出るように心がけました。その月の保育で良かったところや反省点、子どもの情報を共有して保育に活かしました。
- ・ 保育日誌にその日の気づきを記入し、常に保育者間で情報を共有しました。
- ・ 「ヒヤリハット」「ケガ・事故」をミーティングで共有し、再発防止に向けて話し合いました。
- ・ 朝の会では、その日に来ているお子さんの情報を伝え、記録して見えるように張り出しました。
- ・ 有資格者を増やす為、保育士資格試験の受験ができるように努力しました。

《家庭的保育室なないろ》

1. 子ども一人ひとりの姿を受け止め、発達過程にあった関わりの中で心身の成長をしっかり支える保育をしていきます。

- ・ 子ども一人ひとりのありのままを受け止め、子ども自身の声を聞く姿勢を大事にしました。
 - ・ 小規模保育の利点を生かし、一斉ではない柔軟な日課を心掛けました。
 - ・ 子どもが自ら成長する力を理解し、発達過程を土台とした関わりの中で、個別対応を検討しました。
2. **家庭との信頼関係を築き、保護者の思いに寄り添いながら、共に子どもの成長を支えあい、安心・安全に過ごせる保育室を目指します。**
 - ・ 家庭や保育室での日常会話の中から、子どもの成長を伝えあい、共に喜びました。
 - ・ 各家庭が望む子育てを尊重しながら、丁寧に話を聞き、保育に関わりました。
 - ・ 保育者の配置を増やし、安全な見守りを行いました。
 3. **併設の一時預かり保育室と共に活動することにより、子どもたちが交流の幅を広げ、多様な環境と関わりながら経験を重ねていくことを大切にします。**
 - ・ 様々な人や物との関わりは、子どもたちの経験が広がる機会になりました。
 4. **保育者・栄養士ともに、子どもたちの環境の一部であることを意識し、保育内容の充実と質の向上を図ります。**
 - ・ 季節に応じた食材に触れることで食への関心が高まり、食べる楽しみへとつながりました。
 - ・ 調理過程を五感で感じる環境の中で、子どもたちは食事の時間を楽しみにし、食への感謝の気持ちが自然に身に付きました。
 - ・ 栄養士が直接、喫食状況を見ることで、個別対応ができました。また保育者も都度相談することができました。
 - ・ 保護者からの食事に関する相談に、柔軟で専門的な対応ができました。
 - ・ 栄養士の専門性を生かした食育計画の作成と助言を、保育職員も理解し、食環境が充実しました。
 - ・ 豊かな食の経験の機会が提供できたことで、家庭での好き嫌いの悩みにも良い影響がありました。
 5. **地域との交流を大切にし、連携園・関係機関・子育て支援に関わる方とのより良い繋がりが持てるように努めます。**
 - ・ 連携園訪問の際には、園庭で遊ばせていただき交流をしました。
 - ・ 必要に応じて関係機関との情報共有を行いました。
 - ・ 203号室で、地域に向け「なないろ育児相談の日」を継続しました。
 - ・ 栄養士が広場に出向き、食についての相談やアドバイスを行う機会を設けました。

《一時預かり保育室なないろ》

1. **パレットの理念のもと、0～2歳児、定員7名の少人数の良さを生かし、感染対策も引き続き行いながら、子どもが安心・安全に健やかに過ごせる一時預かり保育室を目指します。**
 - ・ 子どもが安全に楽しく過ごせるよう、受け入れ時に保護者から聞き取りをし、その日の子どもの様子や体調に応じて細やかに対応しました。また、慣れない場所に来ている子どもの気持ちに寄り添い、一人ひとりに真摯に向き合いました。

- 子ども同士の触れ合いや遊びの中で、異年齢で過ごす良さを大切にし、安心して過ごせる保育室であるよう努めました。
 - 個人記録をつけることにより日々の成長記録となり、久しぶりの利用時には参考にでき、スタッフ皆が子どもについての共通認識を持つことができました。また、保護者から聞き取りした事柄と合わせて、保育や子どもの安定した生活のために生かすことができました。
 - アレルギーのある子どもについては事前に保護者からの聞き取りを行い、マニュアルに基づいて複数のチェック及びスタッフ間でも共有し、食前・食中・食後、最大限配慮しました。
 - 新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症の位置づけにはなりましたが、乳幼児が過ごす保育室としておもちゃや室内の消毒など、引き続き取り組みました。
2. **保護者の気持ちや悩みに寄り添い、育児をサポートします。また、関係機関と連携し、一時預かりを必要とする家庭が利用できるように努めます。**
- 登録時や送迎時の保護者の表情や様子には気を配り、丁寧に聞き取り、必要なアドバイスを行い、安心してもらえるよう努めました。短時間でも緊急の預かりを受け入れるよう努めました。
 - できる限り利用理由も丁寧に聞き取り、保護者の悩みや気持ちに寄り添えるようにしました。
 - 関係機関からの依頼による様々な家庭のお子さんも預かりました。
 - WEB 予約システムが定着しつつあり電話は減りましたが、登録時や送迎時に利用に関する意見や感想を聞くことができました。
3. **併設型保育室の良さを生かして子ども同士が交流できるように、スタッフ相互で連携します。また、それぞれの視点から、振り返りやミーティングを充実させることで、スキルアップを図ります。**
- 日々、その日の保育についての振り返りを行い、より良い保育のための改善点について、意見交換することができました。
 - 日々のヒヤリハット事項、けがなどの発生をミーティングで共有することができました。
 - 小規模保育室と共に、ミーティングにて毎月内部研修を行い、保育の意識を高めることができました。
 - 預かりに慣れていない低年齢の子どもが増え、小規模保育室と一緒に活動が難しい日もありましたが、小規模併設型の一時預かりであることで、一時預かりだけでは行えない活動や、共に過ごすことでの新たな子ども同士の関わりができるなど、利点を生かせるよう工夫しました。
4. **乳幼児一時預かり事業の意義と役割、必要性を発信していきます。**
- 様々な機会を捉えて、行政や各機関にも子育て支援としての預かりの意義を伝えていきます。働いていてもいなくても、障がいがあってもなくても、理由の如何に関わらず、安心して預けられる保育室があることを様々な機会に伝えてきました。
 - 保護者に寄り添い、子育ての相談にも応じて、急な預かりにも対応しました。
 - 登録時や送迎時の聞き取りで保護者の気持ちに寄り添いつつ、一時預かりの意義や必要性を認識して貰えるよう努めました。

5. 「はじめてのおあずかり券」についての周知と利用を進めます。

- ・ 利用登録時に対象者の方には、「はじめてのおあずかり券」についての周知と利用を勧め、多くの利用がありました。

《いるかくらぶ》

放課後、就労等により保護者がいない小学生が、安心して安全に過ごす事ができる居場所を提供します。

1. **子どもたちの安心安全を第一に考え、自ら考え安全を確保する力を育み、主体的に放課後の時間を豊かに創造できるよう支援します。**
 - ・ 新生児については慣れるまで、職員が学校に迎えに行き、学校からいるかくらぶまでの道の危険箇所を確認して歩き、安全に歩くスキルを培いました。日常において危険の回避、危険箇所の気づきを少しずつ積み重ね、大きなケガもなく安全に過ごすことができました。公園の外遊びでは、地域の人に配慮することができました。公園の安全な使い方については折に触れ話し合いました。職員だけでなく、高学年が低学年に危険箇所について注意喚起する姿も多く見られました。
 - ・ 遠足では、横浜市と東京都の防災センターに行き、体験を通して防災意識を高めました。電車やバス等の公共交通機関を使う際に、公共のマナーと安全対策を学ぶことができました。
 - ・ 職員による環境整備の他、日常清掃を清掃業者にも依頼し、衛生環境の維持に努めました。子どもたちが行う毎日の当番活動で除菌作業も定着してきました。
2. **異年齢の集団の良さを生かして、遊びや活動を通して、自他共に尊重し、お互いに思いやり、育ち合える環境を作ります。**
 - ・ 当番活動の単位である班を異年齢で構成することで、毎日の活動を通して互いに学び合うことができました。春と秋に、班のメンバー替えを行い、交友関係が広がるようにしました。
 - ・ ベーゴマやけん玉、こままわしなど、練習することで上達する遊びでは、どの児童もお互いに刺激を受けていました。
 - ・ 本が好きな児童が多く、本棚の内容を整えました。おすすめの本についておしゃべりを楽しむなど、本を通した自然な関わり合いがありました。
 - ・ 外遊びでは、日常的に、葉っぱひろいや虫さがしなど、自然を通した交流が見られました。夏の行事は、高学年が手伝う機会を作ったことで、異年齢交流が深まりました。
 - ・ お楽しみ会では、劇や合奏など、当日まで練習を積み重ねる中で多くの成長がありました。
3. **子どもも保護者も、一人一人がほっとできる居場所になるよう配慮し、正しい情報提供に努めます。**
 - ・ 季節の節目ごとに折り紙行事などを行い、子どもも大人も季節を感じられるようにしました。子ども新聞を購読し、子どもたちが社会の情報を正しく得られるようにしました。
 - ・ 思春期の高学年児童への配慮のため、和室を6年生優先スペースとし、高学年が取り組みたいことに集中できる環境を整えました。

- ・ 私立の児童のため、制服置き場や着替えスペースを整えました。
 - ・ 登室頻度の違いに関わらず、誰もが安心して過ごせるよう、職員一同、声かけや雰囲気作りに努めました。2023年度は児童の興味が特に多岐にわたりましたが、おもちゃなどは関わり合いが生まれるものを選び、自然な交流が生まれるよう工夫しました。
 - ・ お迎えの時間は、その日の出来事を具体的に伝えることを大切にしました。お便りやインターネットなどでも情報発信を行いました。お迎えに来られない保護者には、メールや電話で、情報共有をすることに努めました。
4. **学校と保護者とくらぶとパレットで子どもたちを見守り、地域が協力して子どもたちを育てるようお互いに協力します。**
- ・ 学校とは、訪問やお便りなどで、連携することができました。特に、緊急時の対応や下校時の歩き方について、丁寧に情報共有を行いました。学校ごとに作成した、いるかくらぶまでの道のりを記した安全下校マップを、保護者や学校と確認しました。
 - ・ いるかくらぶ児童は、公園愛護会の一員として、日常的にゴミ拾いや花壇の手入れなどを行い、地域貢献を行うことができました。花壇作りのイベントで、子どもたちが近隣施設の窓に楽しい絵を描いて、道行く人の目を楽しませることもできました。
 - ・ 通行旗を使って、地域の人々が横断歩道を安全に歩けるよう活動しました。
 - ・ 保護者とはお迎え時に情報共有に努めました。
 - ・ 絵本ボランティアなど、いるかくらぶ児童と他事業所とが関わることのできる行事も実施しました。
5. **保護者会の協力と理解を得ながら、パレットと連携し、イベント等を工夫して、地域の理解を深めます。**
- ・ 春秋の公園清掃は、普段使っている公園をみんなできれいにする中で、交流が生まれました。地域の方やパレット他事業所からの参加もあり、各回40名程度で活動しました。秋には、市ヶ尾高校生徒約40名といるかくらぶ児童と一緒に公園掃除をすることもできました。普段の生活の中でも、水やりや草ぬき、花植えなど、公園愛護会の活動ができ、地域貢献ができました。
 - ・ 新入生歓迎会では、雨の合間をぬって歌やけん玉で交流できました。
 - ・ お楽しみ会は、地域の施設で音楽や劇の出し物を披露しあいました。保護者も手話の歌を披露しました。やきいも大会では、参加者50名程で焚火体験と焼き芋を楽しみ、交流しました。
 - ・ 長期休み期間は、地域の講師を招いたイベントも工夫しました。
6. **保護者が就労している間、安心して預けられる場所を目指し、1年生から6年生までの親子のニーズに対応した運営内容を検討し取組みます。**
- ・ 利用時間や、学校お迎え、習い事での中抜けなどの保護者ニーズに、柔軟に対応しました。習い事で中抜けをする児童が多く、入退室の把握ニーズの高まりから、入退室について保護者にお知らせをするシステムを導入しました。
 - ・ 学習面では、夏休み中に、和室を自習室として活用しました。学習時間は、個別指導が必要な児童には空間の配慮を行いました。学校の課題が多い私立小児童は下校直後の学習習慣の定着を図るなど、個に応じた学習を支援しました。
 - ・ 保護者会の会議は、オンラインと対面形式を組み合わせ、工夫して話し合いました。

- ・ 放課後児童健全育成事業の事業所が多くある昨今、放課後児童クラブとしての良さ、パレット学童保育室いるかくらぶとしての良さを発信することに努めました。インターネットによる情報発信では、受け手にとって分かりやすい情報発信を研究しました。

② 子育て中の親子の交流事業

《びよびよ》

1. 子育て家族が親しみやすい居心地のよい広場づくりを目指します。
 - ・ 親子で楽しく参加できるイベントを企画し交流の機会をつくりました（ふれあい遊び、ベビータイム、ぴよさんぽ、ぴよママワークショップなど）
これらの企画をきっかけに利用者同士がお互いに子どもに声をかけあい、見守り助け合うようすが見られました。
 - ・ 新しく会員になった方や初めて利用する方も温かく迎えられよう、言葉がけや雰囲気づくりをしてきました。
 - ・ 利用者からの相談（子どもの発達、離乳食、眠りなど）に応じて、外部講師を招き少しでも悩みを解消できる手助けを行いました。
 - ・ にちよう広場では父親にも参加しやすいイベントを企画することで父親や家族での利用が増えました。
2. 近隣の地域の親子、家族に安心して、気軽に遊びに行ける広場があることを知らせます。
 - ・ おさんぽ企画では近隣の公園に遊びに行くことで、そこで遊んでいる親子にも広場のことを知ってもらうきっかけを作りました。
 - ・ 通信は600部、自治会用に100部毎月発行してきました。自治会掲示板に通信を掲示し、地域の方々にもびよびよのことを知ってもらうことができました。
 - ・ ホームページやブログ、LINE公式アカウントを使い、広場で遊ぶ親子の様子やイベント情報など、興味を持ってもらえるよう発信してきました。
3. メンバーのチームワークを大切にし、自主研修や外部研修で得た情報を共有し、スキルアップに繋げていきます。
 - ・ 日々の振り返りを行い日誌に書きとめることで、広場の状況をスタッフ間で共有することができました。
 - ・ スタッフやサポーターは利用者の育児不安や悩み、小さな困りごとを話し出せるような雰囲気をつくることで、一人ひとりに寄り添うよう努めてきました。
 - ・ 毎月行うスタッフ会議で課題や問題点を話し合い共有することで、よりよい広場になるための工夫や改善を行いました。
 - ・ 外部研修の広場体験に参加したことで、情報共有し、より良い広場づくりに役立てることができました。
4. 地域で子育て支援をしている方との交流や情報共有、地域活動への参加など繋がりを大切にしていきます。

- ・地域の赤ちゃん教室で広場のイベントや利用案内をしました。関係機関の方々とも繋がり、情報共有することができました。赤ちゃん教室での広報や会話をきっかけに広場を利用する親子も増えました。顔の見える繋がりを大切にしていきます。
 - ・地区別ネットワーク連絡会に参加し、荏田地域の子育て支援者と情報交換、交流の機会がありました。荏田地域にある資源をより広く利用者と地域の方々に知ってもらい、活用してもらえよう努めていきます。
 - ・青葉ひろば会議に出席し、広場の課題や情報を共有し連携をしてきました。
 - ・親子で利用できるイベントや地域情報、通信など見やすい掲示を工夫し、利用者の求めている情報を口頭でも伝えました。
 - ・おさんぼの企画で保育園の施設開放に出かけ、地域交流の機会を持ちました。また、同保育園が開催した救命救急講座にも参加しました。
 - ・「保育のぼけっと」で保育資材を借りたことをきっかけに入園前の利用者の不安な気持ちに保育士さんが対応する機会を得ました。
5. **パレットの各事業所や地域、行政と連携を深め、共に子育て家族を応援します。**
- ・子どもの預け先を心配していた利用者を横浜子育てサポートシステムに繋げることができ、提供会員と安心して利用してもらうことができました。
 - ・青葉区役所のハローベビークラスで広報をすることができました。妊娠期から地域にある広場を利用できることを伝え、それをきっかけに見学されることができました。
 - ・横浜子育てパートナーに来室してもらい、子育てに不安を抱えている利用者の話を聞いて情報を伝えることができました。
 - ・ラフル主催の青葉区子育て情報発信デイに参加し、区民の方に広報することができました。

《ぶーぶーしえすた》

1. **すべての育児中の親子が他の親子とつながりを持つと共に、地域とのつながりを持ち、親子で安心して過ごせる居場所を目指します。**
- ・週5日常設と月に二回程度土曜日、祝日に広場を開催し、いつでも誰でも温かく迎え入れ、安心して過ごせるように環境を整えました。
 - ・感染症予防対策としてお昼と終了時に館内消毒を行い、安全安心の広場環境を整え広場を開催しました。
 - ・リピーター利用者が広場の雰囲気づくりに参画し、初めて来た親子ともおしゃべりを通してアドバイスしあい、助け合う場になりました。
 - ・イベントの日だけではなく、通常の広場での親子のようすをブログにて紹介し、利用を躊躇していた親子や、居場所を探していた親子に気兼ねなく利用できる広場である事を配信しました。
 - ・イベントを行い広場にに来てもらいやすい環境を作りました。 Baby タイムやお話し会、英語で遊ぼう、ヨガでストレッチのイベントは、お子さんとともに親子と一緒に楽しむイベントとして好評でした。
 - ・手作りの日は利用者さん同士がおしゃべりしながら交流できるお楽しみのイベントとなりました。利用者同士でお子さんを見守りあうこともできました。
 - ・広場玄関に通信やのぼりを置き、子育て親子でない地域の方にも存在を知ってもらうことができました。また、地域の掲示板に通信を貼って存在をアピールしました。

- ・ 育休の方向けのおしゃべり会は保育・教育コンシェルジュを招いて開催し、好評でした。
 - ・ 國學院大學絵本キャラバンの学生が定期的にイベントを開催し、親子と交流することができました。
2. **ワーカー・スタッフ・ボランティアのチームワークを大切にし、外部研修などを積極的に活用し、スキルアップしていきます。**
- ・ 毎月行うスタッフ会議で情報を共有し、問題提示をし、よりよい広場になるよう話し合い、丁寧な対応に努める体制を維持することができました。
 - ・ 日々の日誌記入などで情報共有しました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアの見守りのもと、地域の親子が集い、交流しながらお互い支え合う居場所となれるよう努めました。
 - ・ スタッフや地域ボランティアは利用者が話しやすい雰囲気を作り、寄り添う姿勢を大切にし、日常の悩みや育児不安を話せるように努めました。
 - ・ 相談内容は個人情報を保護し、外部にももらさないことを厳守しました。
 - ・ 配慮が必要な場合は、スタッフ会議で子育て支援資源について話しあい、関係機関と連携して共に見守りました。
 - ・ 積極的に外部研修に参加できるようシフトの調整などでより参加しやすい環境にしました。
3. **地域交流に継続して取り組み、地域活動に積極的に参加していきます。**
- ・ 赤ちゃん教室で地域の方々や保健師、主任児童委員との交流や情報の交換ができました。
 - ・ たまプラーザ次世代タウンミーティングやネットワーク作りなどの会議などに積極的に参加し、地域の情報交換をすることができました。
 - ・ ハロウィンイベントでは地域の商店街の方々と協力して開催することができました。
 - ・ たまプラーザ商店街の夏祭りでは、結の会（手づくり手芸の会）、國學院大學絵本キャラバンの学生とコラボし出店することができました。また、たくさんの元利用者の方と交流することができました。
 - ・ 美しが丘ケアプラザ祭りなどに参加する予定でしたが中止となりました。
4. **他の親と子のつどいの広場事業所やパレットの各事業所など子育て支援ネットワークを活用し、連携して子育て支援の充実に努めます**
- ・ 地区別ネットワーク連絡会に参加することで、保育園、センター保育園、拠点事業の話を聴くことができました。
 - ・ まーぶるの登録説明会を積極的に開催し、預かりの状況などの情報を利用者登録に結びました。
 - ・ 青葉ひろば会議に出席し、それぞれの広場と連携し情報共有しました。また、青葉ひろば会議研修では、産前産後の子育て支援資源について学びました。
 - ・ 地域子育て支援拠点ラフルや一時預かり事業所、つどいの広場など通信やパンフレットを広場の見やすいところに掲示し、必要な方へ情報提供をしました。
5. **行政からのお知らせを掲示するとともに、広場をより身近に感じ、気軽に来てもらえるよう、毎月の通信の発行、ブログ、LINEなどで広場の情報を発信していきます。**

- ・ 区内の赤ちゃん教室、栄養相談、歯科相談などの福祉保健センターからのお知らせを見やすい所に掲示し、また対象月齢の利用者親子には案内をしました。
- ・ 赤ちゃん教室やほっこりんこで、広場の活動紹介やイベントの案内をしました。
- ・ 自治会の掲示板に毎月通信を掲示してもらっており、子育て世代以外の方々にも広場の事を知ってもらうことができました。折り紙などを寄付してくださる方もいました。
- ・ ブログや通信（毎月発行）、公式ラインで広場の様子やイベント報告、イベント情報今後の予定を広報しました。公式ラインは毎年お友だちが増え続けています。
- ・ 保育園や幼稚園情報を知らせるため、たまプラーザ地域の保育園情報などわかりやすくファイルしたり、一時保育の保育園情報を掲示したりしました。

③ その他この法人の目的を達成するために必要な事業 《ラフル》

1. 「青葉区みんなで子育て」の機運を高め、子育てを応援する仲間を増やします。
 - ・ 区報、ラフルニュース、ラフルのHP、Instagram、Facebook から拠点の役割やひろばの様子などを発信しました。外部メディアからは、YouTube なしかちゃんねるでのラフル紹介、地域の広報誌デジタル版での広報、地域のラジオ番組出演など行いました。青葉区民まつり、ショッピングセンターでの情報発信やひろば開催など区民に向けて子育ての現状を伝え、子育て応援団になってもらうための広報活動を行いました。それぞれの機会に横浜子育てサポートシステムの提供会員、ラフルのサポーター、ボランティア、ハマハグ登録店への協賛など、応援の仕方も様々あること、青葉区子育て応援シンボルマークのストラップを付けて応援の気持ちを伝えてほしいことを紹介しました。
 - ・ 小学2年生の生活科の授業「広がれ私」に親子と共に参加しました。中学の図書委員会、高校のボランティア委員会にラフルでの読み聞かせボランティア募集の案内をして参加を得ました。今年度から看護大学生の母子ケア実習に加え地域包括実習を受入れ、子育ての現状と親子と過ごす中で課題について考える機会を持ちました。
 - ・ ラフル利用者に常時活動できるボランティア、周年行事や小学校の授業への参加ボランティアを募り活動してもらいました。その中から子育てサークルの立ち上げに繋がったケースもありました。
2. 地域子育て支援拠点のもつ多様な機能や役割を区民や関係機関に知らせ、活用につなげていきます。
 - ・ 区民向けリーフレット、4か月健診での配布資料をラフルの様子が伝わりやすいものに刷新しました。
 - ・ 4か月健診時のワクワク情報コーナーを継続して行い、参加者に地域の情報を案内しました。
 - ・ SNS での発信は行いつつ、改めて必要性を感じた対話を介しての情報提供にも力を入れました。
 - ・ 出かけて行ってひろばを開催する出張ラフルを6か所で開催しました。各地区の子育てを応援する施設、人に集まってもらい、親子とつなげました。ラフルの機能を知らせました。

- ・ 拠点内事業である横浜子育てサポートシステムだけでなく、預かり新制度についての説明会、研修会を開催しました。
- ・ 各種関係機関との会議に参加し、ラフルの役割と親子の様子を伝え、子育てに困っている人や悩んでいる人に紹介してもらうよう、また支援者の相談先としても利用できることを伝えました。
- ・ 横浜子育てサポートシステムが預ける・預かる両会員にとって参加しやすい制度に変わりました。これを機に入会説明会、提供・両方会員予定者研修の開催回数を増やしてしたことどちらの会員も増え、活動を広げることができました。活動依頼はコロナ以前件数を超えました。
- ・ ひろばは、マスクを外して親子で交流する姿が戻ってきましたが、コロナ以前の利用者数には至りません。コロナ禍で孤育ての傾向が強まった中、つどい群れることの意義をどう伝えていくかが課題です。

3. 将来親となる次世代からの包括的な子育て支援に取り組みます。

- ・ 妊娠期から利用できる事業に力を入れました。新企画「赤ちゃんを迎える準備会」では、区の母子保健コーディネーターからの沐浴指導と、子育て中に起こる様々な出来事にどう対応するか、すごろくを使って擬似体験しました。妊娠期の企画後は、出産後の生活をイメージできるように子育て中の現役家族との交流や話を聞く機会を持ちました。
- ・ 一年を通して、学生のボランティア、実習生を受け入れました。小学校2年生の生活科の授業に2校、1校ではラフルがまち探検の立ち寄り場所になりました。